

英語史教育における日英対照言語史の視点

駒場英語史研究会シンポジウム

「これからの英語史教育を考える — 英語史をトリビアに終わらせないために」

於東京大学駒場キャンパス 2019年9月22日

堀田 隆一

英語史 = 學際的教養科目 (1)

. . . Haruko Momma judges it an “intellectual advantage” that HEL “has never been subject to the compartmentalization that has affected the rest of the discipline.” Over the course of a single semester, a HEL course may incorporate material from history, geography, lexicography, philology, literature, grammar, and linguistics, the last of which includes the subfields of phonology, morphology, syntax, semantics, pragmatics, and sociolinguistics. As Michael Adams has observed, in HEL “many elements of a liberal education converge.” (Heyes and Burkette 3)

英語史 = 学際的教養科目 (2)

- その他 , Baugh and Cable (1–2), Heyes and Burkette (2) にも
- キーワード : “intellectual dynamism,” “integrated knowledge,” “intellectual advantage,” “never . . . subject to the compartmentalization,” “many elements of a liberal education” etc.

英語史教育の方向性

- 誰に対して、どんな目的で英語史を教えるのか？
- (現代標準) 英語の相対化を目指して
- 「単発のトリビアな知識」から「体系的かつ啓蒙的な理解」へ
- 1 提案：日英対照言語史の視点

対照言語史

- “contrastive language history”
- 歴史社会言語学・歴史語用論研究会 HiSo-Pra* (= HIstorical SOciolinguistics and PRAgmatics) の例会で提案（2018年3月に発足）
- 昭和会館研究助成プロジェクト「日本社会の近代化と日本語の標準化 — 『対照言語史』

の観点から」(2018年10月–2019年6月, 代表者は高田博行氏(学習院大学))

- 対照言語学に通時的・歴史的な次元を
- 日本語や英語など個別言語の歴史を比較・対照しつつ, 個別言語史を越えた言語の一般的な通時的傾向を探ったり, 逆に個別言語の歴史の独自性や変化の(社会)言語学的条件を浮き彫りにする

英語語彙の3層構造

英語（本来語）	フランス語（借用語）	ラテン語（借用語）
ask	question	interrogate
fair	beautiful	attractive
fear	terror	trepidation
foe	enemy	adversary
folk	people	population
gift	present	donation
guts	entrails	intestines
help	aid	assistance
kingly	royal	regal
rise	mount	ascend

日本語語彙の3層構造

和語（本来語）	漢語（借用語）	西洋語（借用語）
おおなばら（大海原）	大洋	オーシャン
おかね（お金）	金銭	マネー
およぎ（泳ぎ）	水泳	スイミング
おんなのこ（女の子）	女子	ギャル
かみのけ（髪の毛）	毛髪	ヘアー
くすりや（薬屋）	薬局	ドラッグストア
くるま（車）	乗用車	カー
さくらんぼ	桜桃	チェリー
たたかい（戦い）	戦闘	バトル
ひるめし（昼飯）	昼食	ランチ

日英語の3層の比較

	英語・和語	フランス語・漢語	ラテン語・西洋語
形式度	略式	中立	格式
媒体	話し言葉	話し / 書き言葉	書き言葉
響き	子供ぽい	普通	大人ぽい
距離感	近しい	中間	よそよそしい
難易度	易しい	普通	難しい
音節数	少	中	多
登場順	最初	2 番目	3 番目
?	?	?	?

演習問題の例

1. (表の ? を埋めさせて) 他の共通点は? — 語彙のレジスターの理解に
2. 英語と日本語の 3 層の例をもっと挙げよう — 英語では意外に挙がらない
3. foe は本当に「略式」「話し言葉」「子供ぽい」? — 怪しい例も多数
4. 本当に 3 つの「類義」語? — 「類義」の曖昧性
5. 各階層のレジスターはどのようにして歴史的に成立してきた? — 言語接触の歴史をより深く

初期近代英語期のケース

1. “inkhorn terms” のような批判的なレッテル
— Thomas Wilson, Sir Thomas Chaloner
2. 本来語への回帰を狙う保守派による反動 —
Sir John Cheke
3. 語彙の階層化が促進 — 16 世紀後半以降
4. 難語辞書の出版ラッシュ — Robert Cawdrey’s *A Table Alphabeticall* (1604)

明治期のケース

1. 「チンプン漢語」のような批判的なレッテル
2. 少なからぬ人々に銜学的と揶揄された
3. 和語表現の上に漢語表現が加わって語彙階層を形成・強化
4. 新漢語を一般庶民に解説する漢語字引が次々と出版

昭和・平成期のケース

1. 「カタカナ語」「横文字」などのレッテル
2. 和語（あるいは、少なくとも既存の語を用いた表現）への回帰を主張する保守的な論調も
3. 和語，漢語，カタカナ語という語彙の階層化が進行
4. カタカナ語を解説する辞書が続々と登場

日英対照言語史の視点

1. 語彙とそのレジスターの理解に
2. 日英語の類似点の指摘 — 相違点ではなく
3. 英語の相対化 — 英語は特に「偉く」はない
4. 言語現象の意識化 — 母語も含めた言語問題に敏感に
5. 現在を歴史化し，歴史を現在化する
6. すぐれて教養的，人文的，学際的なトピック

参考文献

- Baugh, Albert C. and Thomas Cable. *A History of the English Language*. 6th ed. London: Routledge, 2013.
- Heyes, Mary and Allison Burkette. Introduction. Chapter 1 of *Approaches to Teaching the History of the English Language: Pedagogy in Practice*. Ed. Mary Heyes and Allison Burkette. Oxford: OUP, 2017. 1–10.
- 堀田 隆一 「なぜ英語語彙に 3 層構造があるのか？」 (連載『現代英語を英語史の視点から考える』第 6 回) 研究社, 2017 年 6 月 20 日 . http://www.kenkyusha.co.jp/uploads/history_of_english/series/s06.html.